



ジェネックス今月のトピックス!



日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)に加盟しました!

このたびジェネックスは、日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)に加盟いたしました。
ジェネックスは、一人でも多くの「笑顔のために」これからも再生可能エネルギーの普及を通じてエネルギーの転換に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



Japan-CLPとは・・・

Japan-CLP (日本気候リーダーズ・パートナーシップ :Japan Climate Leaders' Partnership)は持続可能な脱炭素社会を実現するために、産業界が健全な危機感をもって積極的な行動を開始すべきという認識の下に結成された日本独自の企業グループです。
気候変動を重要な経営課題の一つとして捉え積極的に行動する企業が業種を超えて集結し、社会に対して働きかけを行うことを目指しています。

(JAPAN-CLP ホームページ: <https://www.japan-clp.jp/>)

メンバー企業 (・ASKUL・ORIX・積水ハウス(株)・戸田建設(株)・LIXILグループ(株)・(株)リコー など)
賛助会員(・鹿島建設(株)・大和ハウス工業(株)・日本ガイシ・みずほ情報総研(株) など)



～脱炭素社会に向けての動き～

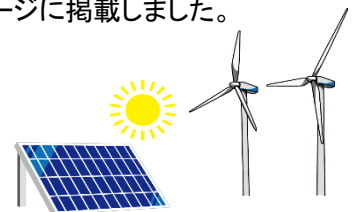
2016年11月に発効されたパリ協定で世界共通目標として「2℃目標」※1が打ち出されました。
その実現のために「低炭素化」さらには「脱炭素化」への取り組みが日本にも求められています。すでに世界では、電気自動車へのシフトや石炭火力発電所の建設予定地をメガソーラーに変更するなど、脱炭素に向けての変化が急速に起きています。

そのような潮流の中、資源エネルギー庁は、CO₂排出を減らすための取り組みとはどのようなものかを紹介する『さまざまなエネルギーの低炭素化に向けた取り組み』(平成30年2月8日)をホームページに掲載しました。

1. 非化石エネルギーの利用推進

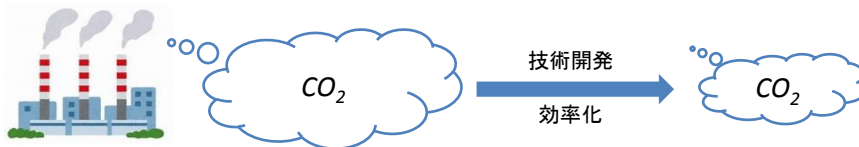
CO₂排出量ゼロ(ゼロ・エミッション)であるエネルギーの導入拡大が進められています。

- ① 再生可能エネルギー導入量の拡大(太陽光や風力、バイオマス等)
- ② 次世代エネルギーである水素エネルギーの利用研究の促進 など



2. 化石エネルギーを燃料とする火力発電の低炭素化

エネルギー供給の8割を化石燃料が占める日本では、安定的に電気を供給できる化石燃料のエネルギーはまだまだ欠かせません。そこで、最新の技術開発や設備導入をして発電効率をアップさせて燃料使用量を減らしたり、排熱を再利用したりするなどの取り組みによって、CO₂排出量の削減が進められています。



3. 日本の技術を世界の低炭素化に活かす

日本の火力発電の高効率化技術は世界的にも非常に優れています。
今後も石炭火力発電が拡大すると予想される東南アジア諸国を中心とした新興国に日本の技術を導入することができれば、将来的に排出されるCO₂の大幅な削減ができるといえます。
このような優れた日本の技術・ノウハウを海外展開することも低炭素社会に貢献する重要な取り組みです。

※1 「2℃目標」とは・・・世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃未満に抑えようとする国際的な目標。

(引用元: 資源エネルギー庁HP : <http://www.enecho.meti.go.jp/>)

※地代や賃借料の払い忘れにお気を付け下さい※ ※発電所の草刈は年2回がベストです※

「ジェネックス通信」毎月1回発行「いつでもお問い合わせください。」